

兵庫県環境審議会大気環境部会
ディーゼル自動車等運行規制条例再検討小委員会（第4回）会議録

日 時 平成20年6月27日（金）16:00～17:20

場 所 兵庫県職員会館 205

議 題 ディーゼル自動車等運行規制条例再検討小委員会報告書（案）について

出席者 委員長 山口 克人 委 員 森 康男
委 員 山村 充 委 員 山根 浩二

欠席者 委 員 西村 多嘉子

欠 員 なし

説明のために出席した者の職氏名

環境管理局长 菊井 順一 大気課長 園田 竹雪
大気課副課長 佐藤 善己 大気課交通公害係長 石岡 之俊
その他関係職員

会議の概要

開 会（16:00）

議事に先立ち、菊井環境管理局长から挨拶がなされた。

審議事項

（1）小委員会報告書（案）について

審議の参考とするため、小委員会報告書（案）について事務局より説明を聴取した。
（資料3）

（ 質 疑 ）

（森委員）

p6の図2.2の意味がよく分からない。凡例の短期以前や短期規制はいつの登録の車か？

（事務局）

対策地域内は法の車種規制により一定期間経過後、自動的に規制適合車に入れ替わるため、ここでは法対策地域外の登録台数を比較しています。条例規制を実施している兵庫県の適合車の割合が実施していない大阪府より高ければ、条例規制の効果により代替が進んだと言えるのではないかと考えました。

図2.2のグラフの率は対策地域外に登録されている自動車の率で、短期以前や短期規制という区分については、参考資料2に示しています。短期規制は平成元年以前規制の車両、短期規制は平成6年規制の車両で、短期規制までが規制不適合車になります。長期

規制以降は適合車でその割合が、普通貨物では兵庫県は約 30%、大阪府は約 15%で兵庫県の方が約 15%高くなっているということを表しています。

図 2.2 については、分かりやすくなるよう修正させていただきます。

(森委員)

p7 のNO₂の推移のグラフでH19年度が大幅に下がっているが、何か原因があるのか？

(事務局)

H19年度に大幅に下がったというより H18年度が高かったため差が出ている。H18年度は気象条件等により、高濃度となる日が多発していたため、全体的に高くなっている。

(森委員)

図 3.1 の最高値は、最高値の平均ではなく全 27 局のうち最高を示した局の値ということていいですか？

(事務局)

その通りです。解説を追記させていただきます。

(山口委員長)

図 3.4 で H14 年から H15 年において、環境基準達成率が 28%から 100%になっているのは何か理由があるのか？

(事務局)

平成 13、14 年度も黄砂の影響により環境基準達成局数が少なかったためである。

(森委員)

p15 の図ですが、度数分布(ヒストグラム)で表したらどうでしょう？X軸に濃度をおくと条例規制有の場合の方が全体的に左によるようなグラフになると思います。分かりやすくなるのであれば検討してみてください。

(事務局)

図については、検討します。また、説明を追加します。

(山口委員長)

p16 の削減排出量の試算ですが、条例規制開始前の試算と比較して約 3 倍の効果があったとしていますが、削減量の見積りを間違えていたとも解釈できるので、一概に効果と断言していいのでしょうか。削除した方がいい。

また、このうち条例規制地域内の削減量とはどういう意味ですか？

(事務局)

直接影響する規制地域内はもちろんのこと、規制地域外でも通過交通が考えられるため、法対策地域外からの不適合車の流入が減少し、排出量の削減があるとしています。

(山村委員)

このところですが、規制地域内で 110 t、間接的な効果として規制地域外に 185 t の削減があったと書いたらいいのではないか。

(山口委員長)

p13の図4.2のフローチャートで規制止めた場合の予測結果によって結論が先に出ている。たまたま環境基準達成が NO なので規制継続となるが、YES の場合でも規制継続はあり得る。規制ありで環境基準が NO であれば、規制強化という方向になるのでこれでいいが、いずれにしても検討課題である。

(事務局)

修正させていただきます。

(山村委員)

p17 の条例規制の存廃時期について、運行規制条例は期限を決めている条例ではないと思うが、「H22 年度を一つの区切りとして」と記載してあるのはどういう意味か？

(事務局)

総量削減計画の目標年度が H22 年度であり、施策全体を見直す必要があることから、そういう表現をしています。条例に期限はなく、いつまでも継続することはできるが、規制内容の再検討の附則があるため、今回、小委員会で検討していただいています。

(山口委員長)

予測の精度はどんなものか？

(事務局)

数ある中の一つの手法を用いて予測をしており、100%正しいとは言えないが、H19 年度の実際のデータを見ても改善傾向にあり、予測はほぼ正しいものになると思われます。ただ、60 を超過するしないは、そのときの気象条件にもよりますので、確実に達成できるよう現行の規制を着実に推進していきたい。

(事務局)

今回ご意見いただいた部分を修正し、再度、確認いただいた上で、最終の報告書としたいと思います。

閉 会 (1 7 : 2 0)